

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 5 月 16 日 (2019.5.16)

【公開番号】特開 2019-51052 (P2019-51052A)

【公開日】平成 31 年 4 月 4 日 (2019.4.4)

【年通号数】公開・登録公報 2019-013

【出願番号】特願 2017-177282 (P2017-177282)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成 31 年 2 月 22 日 (2019.2.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技が可能な遊技機であって、  
遊技を制御可能な遊技制御手段と、

第 1 部材及び該第 1 部材と所定の間隔で離間している第 2 部材と、

可撓性を有する線状部を前記第 1 部材の所定部位とともに保持対象物に巻き付け、該線状部の特定部位に設けられ前記所定の間隔よりも長い係止部に、該特定部位とは異なる部位を係止することにより前記保持対象物を前記第 1 部材に保持することが可能な保持部材と、

を備え、

前記第 1 部材と前記第 2 部材との少なくとも一方は、前記第 1 部材と前記第 2 部材とが前記所定の間隔を維持しながら動作可能であり、

前記保持部材により前記保持対象物を前記第 1 部材に保持した状態において前記係止部が前記第 1 部材より突出し、

前記保持部材により前記保持対象物を前記第 1 部材に保持した状態において前記係止部が前記第 2 部材と接触可能な位置へ回動することを阻止する回動阻止手段を備える

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

前記課題を解決するために、本発明の手段 1 の遊技機は、

遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

遊技を制御可能な遊技制御手段（例えば、主基板 11 など）と、

第 1 部材（例えば、アーム 303L, 303R（第 1 構成部材 321））及び該第 1 部材と所定の間隔で離間している第 2 部材（例えば、第 3 ギヤ 310 / ベース部材 301）と、

可撓性を有する線状部（例えば、線状部 331 / 線状部 431）を前記第 1 部材の所定

部位（例えば、巻付部 3 2 1 e）とともに保持対象物（例えば、配線 L N 等）に巻き付け、該線状部の特定部位（例えば、線状部 3 3 1 の一端 / 線状部 4 3 1 の一端）に設けられ、前記所定の間隔よりも長い係止部（例えば、係止部 3 3 2 / 係止部 4 3 2）に該特定部位とは異なる部位（例えば、線状部 3 3 1 の他端に設けた被係止部 3 3 1 a / 線状部 4 3 1 の他端に設けた貫通孔 4 3 3）を係止することにより前記保持対象物を前記第 1 部材に保持することが可能な保持部材（例えば、結束バンド 3 3 0 / 結束バンド 4 3 0）と、  
を備え、

前記第 1 部材と前記第 2 部材との少なくとも一方は、前記第 1 部材と前記第 2 部材とが前記所定の間隔を維持しながら動作可能であり（例えば、アーム 3 0 3 L , 3 0 3 R は、第 3 ギヤ 3 1 0 の回動により動作可能となっている。図 1 1 参照。）、

前記保持部材により前記保持対象物を前記第 1 部材に保持した状態において前記係止部が前記第 1 部材より突出し（例えば、結束バンド 3 3 0 により配線 L N を第 1 構成部材 3 2 1 に保持した状態において係止部 3 3 2 が第 1 構成部材 3 2 1 よりも前面側に突出する。図 1 2 参照。）

前記保持部材により前記保持対象物を前記第 1 部材に保持した状態において前記係止部が前記第 2 部材と接触可能な位置へ回動することを阻止する回動阻止手段を備える（例えば、回動阻止部 3 2 2 a が切欠部 3 2 1 c の側方に設けられているため、結束バンド 3 3 0 の回動が阻止され、係止部 3 3 2 が第 3 ギヤ 3 1 0 に接触することが防止される。図 1 2 参照。 / 図 1 3 ( A ) に示すように、第 1 構成部材 3 4 1 の側辺部における前面側角部に側壁部 3 4 2 の一部が残存するように切欠部 3 4 1 c を形成し、該残存した側壁部 3 4 2 の一部を回動阻止手段とする。 / キャップ部材 3 5 0 )

ことを特徴としている。

この特徴によれば、回動阻止手段により係止部が第 2 部材と接触可能な位置まで回動することを阻止できるため、該係止部が第 2 部材に接触して第 1 部材または第 2 部材の動作を阻害することを回避できる。